1. 歩行者の安全対策に不安を感じる

昨年の交通事故による全国の死者数は、前年より 213 人少ない 3904 人、記録が残る 1948 年以降では 3 番目の少なさであった。

また、神奈川県では 140 人（前年比 38 人減）、過去最少だったことが公表されており、分類による課題はあるものの相対的には良い傾向となっている。

死者数が減少した理由として、交通安全教育の普及・交差点の見通しを良くする道路改良・見やすい LED 信号機の整備・自動ブレーキなど車の性能向上等が進んだ結果であると警視庁の見解が示された。

本町については、死亡事故・重大事故の発生事案の報告はされていないが、全国では、高齢運転者による事故が多発するなど、交通情勢の不安解消には至っていないのが現状である。

- ① 全国では、車が集団登校中の列に突っ込む事故が多発、通学路の安全対策は万全か。
- ② 道路拡幅の計画がある町道について、交差点間を区間とした工事着手ではなく、部分着手により人の安全を確保するための回避所の確保を。
- ③ 路面標示が薄れている。注意を促すには有効と考えるが、予算措置及び補修計画は万全か。
- ④ 開発に伴い道路状況に変化が伺える。時間を限定した指定方向外進行禁止や進入禁止等、地域住民を巻き込んだ中での交通規制の検討を。